小久保憲一氏（Ｃ１９７９・元北京・天津支部長）から在学生へのメッセージ：

皆さん、卒業したら会社員になる方は多いと思いますので、多分役に立つであろうと思われる処世術を小職の経験からお話しておきたいと思います。
まずは母校の話です。今はどうか解りませんが我々の頃は、高根澤会長の前述の如く、東京外国語大学の学生の個性として「３ない」というのが有りました。「３ない」とは、「群れない」「ブレない」「聞かない」の３つです。小職は、この３つは他大学の学生と差別化が出来る個性的で良い事、と思っています。一方、外国語大学卒の人は、組織の中では色眼鏡で見られることが有ります。曰く、「あいつは、外国語は出来るが自分の頭で考えてビジネスをすることは出来ない。人が考えたことを伝えているに過ぎない。なので幹部にはなれない。」というものです。特に外国語が出来ない人の中にはそういう偏見を持っている方が多いようです。確かに母校出身の人達を見ているとそう言われても仕方がない、それに甘んじている方も見受けられます。でも始めはそうであってもそのうちに、自分の考えを持ち、自分の言葉でビジネスを始める人が多いです。皆さんがどちらになるかは皆さん自身が自分の性格とか価値観に従い決める事です。但し、後者を選択した際には前述の偏見と戦う必要が有ります。そこで「群れない」「ブレない」が活きてきます。
もう１つ、これは言語とは関係の無い話です。学生の時は気の合った仲間とだけ付き合っていれば良い、苦手な人と付き合う必要も接する必要も無いのですが、会社はそうはいかないのです。苦手な人は、社内では上司にも同僚にも部下にも他部門にも、社外では顧客にも取引先にも役所にもいます。学生の時と違って、仕事上それらの人達と毎日密接に会話し付き合わねばならないのです。「今日出勤したらあの苦手な人と会話しなければならない」と思っただけで朝気が重くなってしまうことが長期間続くと、朝出勤しようにも身体が動かない、となる人もよく見受けられます。これを防ぐ１つの方法として、苦手な人の良い点だけを見る、というのが有ります。どんな苦手な人でも良い点が１つぐらいは有るものです。そこだけを見ていると嫌悪感が薄れます。嫌悪感を持っていると相手もすぐそれが解るので関係はどんどん悪くなりますが、良い点だけを見ていると、相手も好意を持たれているのが解りますから、関係は良くなったりします。全て上手くはいきませんがかなり効果があります。
最後にもう１つだけ。会社組織の中では、自分がしたいことや思っていることが上手くその通りに進むことは殆どありません。その時に腐ってしまう人がいます。腐ってしまうと周りはすぐ気づきます。仕事は回ってこなくなるし、助けてくれる人もいなくなります。益々落ち込んでいくことになります。なのでうまくいかない時に腐ってはいけません。努めて明るく元気に振る舞い、仕事に打ち込む姿勢を見せることが肝要

です。組織とは面白いもので、見ていないようで必ず誰かが見ていてくれます。そのうち助けてくれる人が現れて、悩んでいたことが上手く進むこともあります。まあ逆に言うと、悪いところもよく見られている、という事ですが。
さて冒頭の「３ない」は、前述した如く東京外国語大学出身者の個性として良い事と思うのですが、「聞かない」は組織人としては宜しくないところです。「群れない」「ブレない」も強すぎると不利に働きます。そこが、会社員として組織内で上手く生きていけるか、折り合いをつけていけるか、幹部になれるか、はたまた辞めてしまうか、という点で他大学の卒業生と比べて苦労するところと感じています。
1 つ忘れていました。今までの話は我々の世代の話です。昭和の時代は「会社は家、社員は家族、部長は父親、父親の言う事は聞くもんだ」みたいな文化が有りました。今は価値観も働き方も昭和時代と異なりますので、皆さんは考え方が違うと思います。従い、小職のお話は、何か困った時の参考になれば、という程度で聞き流して頂ければ結構です。皆さんの明るい将来を祈念します。頑張って下さい。

2025 年 5 月 12 日

小久保憲一（Ｃ１９７９・元北京・天津支部長、元(株)日立製作所/執行役専務/中国総代表、現（株）KPMG FAS 常勤顧問）